佐渡市佐和田中学校
佐々木　傑（２９年度）

対話活動を取り入れた OPPA の実践

概要

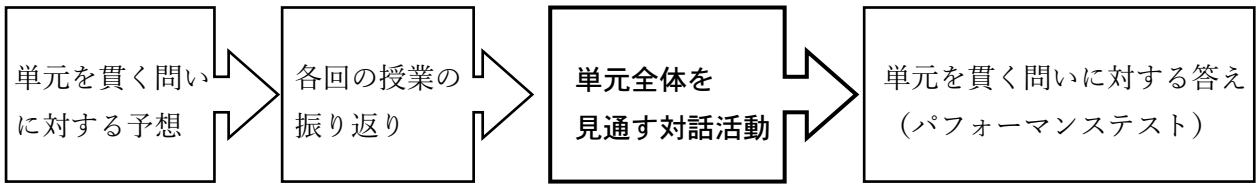
OPPA とは One Page Portfolio Assessment の略であり、学習者が授業の成果を１枚の用紙に学習前・中・後の履歴として記録し、その全体を学習者自身が自己評価をする方法である。これは単元の学習を通して生徒が自分自身の知識や考えがどう変容しているかを把握（メタ認知）することができ、また、教師がその過程を見ることで学習状況の把握と改善につなげることができる。このOPPA の学習過程のなかに対話活動を組み込むことによって、単元全体を見通した多面的な理解を深めることができるものである。

１．研究主題設定の理由

これまでの実践で、OPPA を活用した単元の学習を進めてきた。生徒が授業ごとに大切だと思うことを記録しつつ、単元を貫く問いに対する追究を行い、最後に単元を貫く問いに対する答えを記述することが一連の流れとしてきた。生徒は授業ごとに内容をふり返って記録する力や、最初に自分なりの予想を立てて課題解決を進める力を培ってきた。

しかし、OPPA の取り組みを進めるなかで、単元を貫く問いに対する答えが単元全体の内容を見通したものではなく一面的なものになっており、本当に生徒の学習を深めることにつながっているのかという疑問が生じた。そこで、OPPA の活動の中に対話活動を組み込むことで、単元全体の内容を見通しながら多面的な視点で単元を貫く問いに対する答えを構築することができるのではないかと考えた。

＜単元ごとの学習の流れ＞



研究仮説

OPPA の手法を用いることで生徒は自らの学びを認知しながら、学習を進めることができ、その中に対話活動を組み込むことで、より多面的な学びを実現できるのではないか。

２　研究の実際

実践①　中国・四国地方（地理的分野）

〇単元を貫く問い：「どのように四国新幹線を建設すると地域の活性化につながるだろうか」

〇単元の流れ

１時間目	中国・四国地方をながめて
２時間目	地方中枢都市の発達

3 時間目	過疎化と地域おこし
4 時間目	交通網と人口の変化
5 時間目	対話活動「四国新幹線の路線図を考える」パフォーマンステスト

〇対話活動について

班ごとに中国・四国地方の白地図とホワイトボードを配付し、地域活性化につながる四国新幹線の路線図案を考えた。そこでは、一つの条件で考えるのではなく、これまで勉強してきたさまざまな地理的事象を関連づけて考察を行うことを促した。その結果、最初に学習した内容（気候・人口分布・産業・交通網など）をホワイトボードに書き出し、建設時のコスト軽減や開通後に期待される地域への影響について話し合う姿が見られた。

〇成果と課題

・一つの視点だけで考えず、多面的・多角的な視点で記述している回答が多数見られた。
（自然環境、人口分布、交通網など）

・OPPA の形式を変えたことで、記述方法に戸惑っている様子が見られた。OPPA の書き方や、どういう意図で取り組んでいるかを理解させながら活用する必要がある。

実践②　激動する東アジアと日清・日露戦争（歴史的分野）

〇単元を貫く問い：「日本はなぜ条約改正ができたのだろうか（何が認められて条約改正できたのか）。」

〇単元の流れ

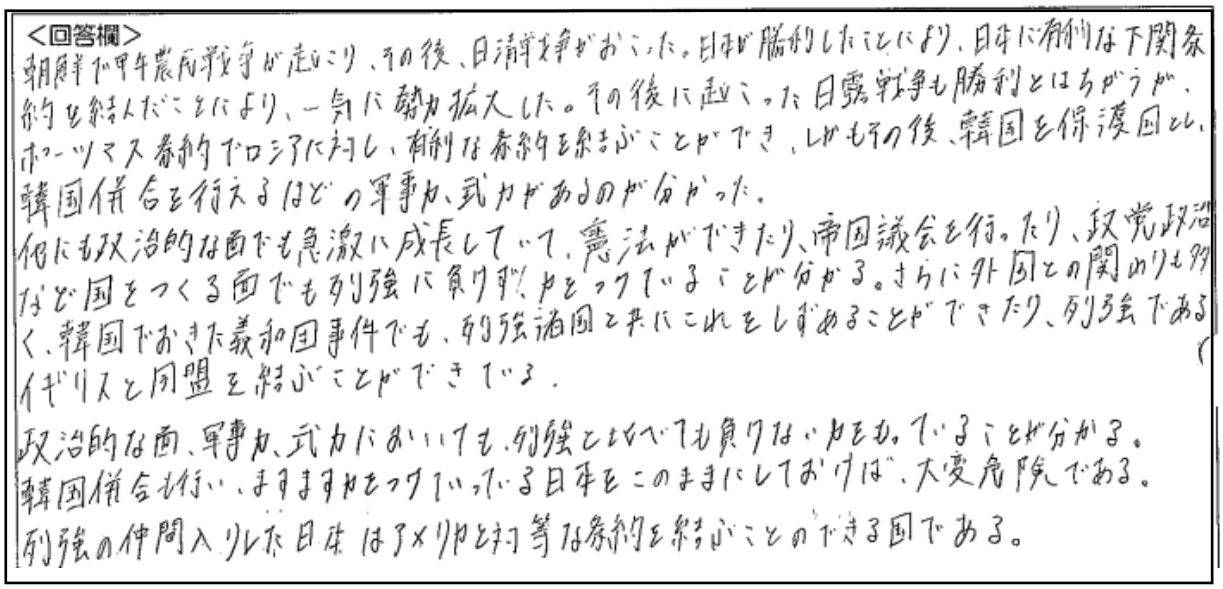
1 時間目	対等な条約を求めて
2 時間目	朝鮮をめぐる戦い
3 時間目	「眠れる獅子」に迫る列強
4 時間目	列強との戦い
5 時間目	変わりゆく東アジア
6 時間目	対話活動「日本が国際的な地位を上げた理由は？」パフォーマンステスト

〇対話活動について

この単元ではパフォーマンステスト前に「日本は何が認められて条約改正できたのだろうか」というテーマで対話活動を行った。日本がどのようにして国際的な地位を向上させ、不平等条約改正に向けて取り組んできたかを扱った単元であるが、生徒の視点は日清・日露戦争に偏っていた。そこで、対話活動では「日本が国際的な地位を向上させた要因ランキングベスト３」として、日本の国際的な地位向上につながった要因を３つ選び、順位づけを行った。３つ選ぶことで日清・日露戦争以外の要因も探す必要があり、班によって韓国併合、欧化政策、政治体制の変化などの要因が挙げられた。それらをクラス全体で共有することで、戦争以外の視点も加わった状態でパフォーマンステストに取り組む事ができた。

〇成果と課題

下の例のように、さまざまな視点（戦争、韓国併合、憲法、帝国議会、日英同盟など）を関連づけている単元を貫く問いに対する回答が見られた。


<回答欄>
朝鮮で甲午農民戦争が起こり、その後、日清戦争がおこった。日本が勝利したことにより、日本に有利な下関条約を結んだことにより、一気に勢力拡大した。その後に起こった日露戦争も勝利とはちがうが、ポーツマス条約でロシアに対し、有利な条約を結ぶことができ、しかもその後、韓国を保護国とし、韓国併合を行えるほどの軍事力、武力があるのが分かった。
他にも政治的な面でも急激に成長していて、憲法ができたり、帝国議会を行ったり、政党政治など国をつくる面でも列強に負けず力をつけていることが分かる。さらに外国との関わりも多く、韓国でおきた義和団事件でも、列強諸国と共にこれをしずめることができたり、列強であるイギリスと同盟を結ぶことができている。
政治的な面、軍事力、武力においても、列強とくらべても負けない力をもっていることが分かる。
韓国併合も行い、ますます力をつけていっている日本をこのままにしておけば、大変危険である。
列強の仲間入りした日本はアメリカと対等な条約を結ぶことのできる国である。

実践②の単元の学習後にアンケートを実施した。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
ポートフォリオを使うことで、単元の学習の理解につながっていると思うか	28.3% （17 人）	43.3% （26 人）	23.3% （14 人）	5% （3 人）
パフォーマンステストに取り組むことで、学習内容の理解が深まっていると思うか	38.3% （23 人）	30% （18 人）	25% （15 人）	6.7% （4 人）
対話活動は、単元の学習内容の理解やパフォーマンステストの回答を深めることにつながっているか	56.7% （34 人）	36.7% （22 人）	5% （3 人）	1.7% （1 人）

「対話活動をパフォーマンステストの前に行うことで内容の理解が深まっているか」という項目では肯定的な評価が 93.4%であり、生徒にとっても対話活動に有効感があることがわかった。

一方、「ポートフォリオが学習の理解につながっているか」「パフォーマンステストで内容の理解が深まっているか」という項目では肯定的評価が約 70%であり、改善の余地が見られる。

そこで、実践③では「対話活動によって視点を広げる」ことは継続しつつ、他生徒の OPPA への記述を紹介し共有することで、ポートフォリオが単元の学習の理解につながるものとすることを目標とした。

実践③　恐慌から戦争へ（歴史的分野）

〇単元を貫く問い

「一次大戦後の反省があったのに、なぜ再び大きな戦争につながってしまったのだろうか。」

〇単元の流れ

1 時間目	独裁者の出現
2 時間目	日本を襲う不景気
3 時間目	満州は日本の生命線

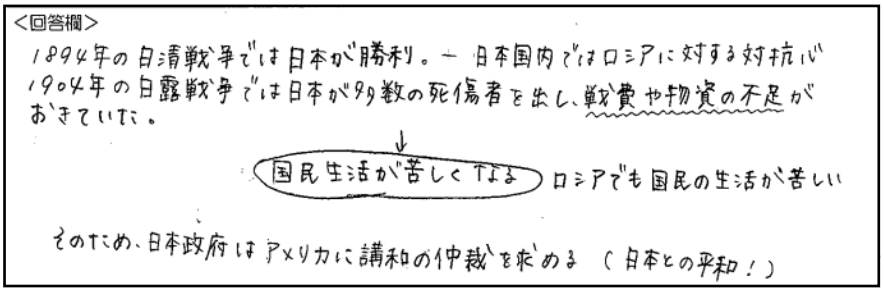
4 時間目	軍部の台頭
5 時間目	ぜいたくは敵だ
6 時間目	対話活動「どうすれば戦争は避けられた？」パフォーマンステスト

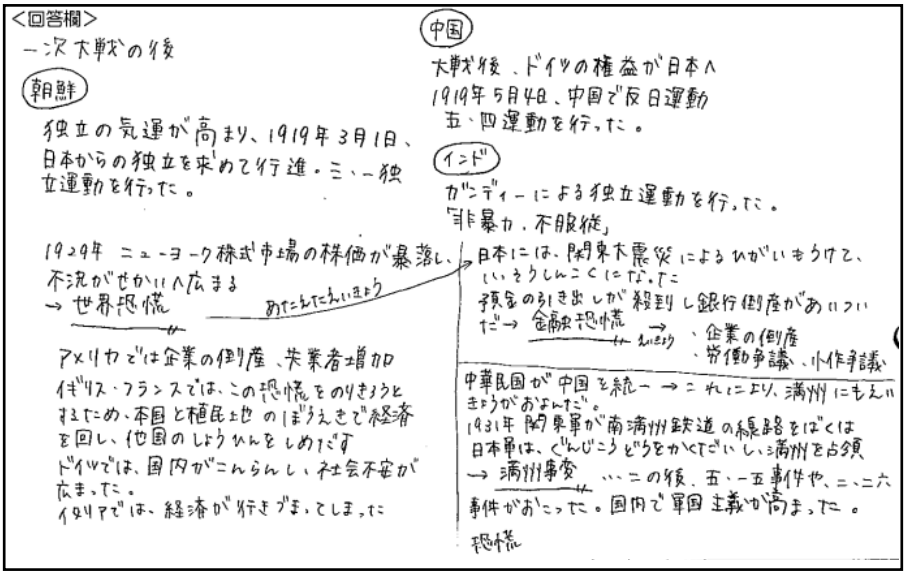
〇対話活動について

この単元では「あのときどうすれば戦争を避けられていただろうか」というテーマで対話活動を行った。各班で日本が戦争へと進むきっかけとなったできごとを選び、そのときどうしていれば戦争をさけられたかを話し合った。「満州事変の際に関東軍を止めていたら」、「国際連盟を脱退していなかったら」、「世界恐慌への対策ができていたら」、というような意見が出された。これらが単元を貫く問いについて考察するときのポイントであることをクラス全体で確認し、パフォーマンステストを行った。

〇成果

右の二つの記述は同一生徒の実践②と実践③のパフォーマンステストの回答である。実践②（上）では一つの視点のみの記述であったが、実践③（下）では、他生徒の OPPA の記述を参考に見せて OPPA の記述を指導した結果、より様々な視点で国内の様子を分析することができた。また、対話活動で出た世界恐慌、満州事変などを関連づけて記述することができている。





3　結論

生徒の記述の変化やアンケートの結果から、OPPA の手法に対話活動を組み込むことで、より多面的な学びを実現することができたと言える。対話活動を通して他の人の考えを聞き、班ごとに考えたことをクラス全体で共有することで、単元の全体を俯瞰しながらパフォーマンステストに回答できるようになった。

4　研究の反省、今後の課題

今回の実践のきっかけは、「OPPA の手法を取り入れてみたが、パフォーマンステストに単元の後半で学習したことのみの記述が多い」と感じたことであった。そこで対話活動を通して多面的な視点を持ち、単元全体を見通すことを目指したが、対話活動を取り入れることで授業時数との兼ね合いが課題となった。授業時数も考慮しながら単元の指導計画を立てていく必要性を感じた。また、アンケートの結果、OPPA やパフォーマンステストの有効性を感じられていない生徒がいることも判明した。特に下位層の生徒へどのように支援をしていくのがより有効であるかを検討し実践していくことが今後の課題である。